

地方民紀行鉄

青い森鉄道株式会社



北国とは思えない、
うだるような暑さ。
涼しさをくれるのは、
線路を守る木々の木陰に、
漁船、温泉、ソフトクリーム。

東

北新幹線から青い森鉄道の快速「しもきた」に乗り継ぐ予定で降り立った八戸駅の在来線ホーム。右手には「JR」と書かれた白地に緑の縁取りの電車。左手には青い森鉄道のキャラクター・モーリーが描かれた青い電車。迷いもせずにモーリーに乗り込み出発を待っていると、予定時刻に発車したのはJRと書かれた方。あっちが「しもきた」?!

総延長は121.9 km。
どこで、何する?

快速「しもきた」は、八戸駅から野辺地駅までは青い森鉄道だけれど、野辺地駅から先はJRの線路に入る電車。「JR」と書かれた車体は、どうやらそのため。

青森駅から八戸駅を通って目時駅までをつなぐ青い森鉄道の総延長は121.9 km、片道2時間10分。途中の八戸駅から青森駅まででも1時間30分。運行が1時間に1本の時間帯もあるのだから、乗り継ぎには十分注意するべきだった。とはいえ、幸運なことに次の電車の発車は30分後。今日のプランを立てる時間をもらったと思えば、まあいいか。

参考にするのは事前に青い森鉄道の方にいただいた沿線の見所リストと沿線ガイドブック「青い森鉄道FREEツアーBOOK」。電車の時間を考えると、途中下車できる駅は限られる。あれこれ考えているうちに、あつという間に30分経過。電車が出発。

駅周辺の住宅地以外、車窓の景色は田んぼが畑か森か林。青い森鉄道の名前の通り、夏

の強い日差しの下、「青」々と生い茂った「森」林の間を突っ切るように走っていく。駅と駅との間隔も長いとなれば、「一駅先まで歩いて向かう」のは到底無理。これはいよいよ、降りる駅を厳選しない。

暑かろうと寒かろうと温泉には入りたい、ということで浅虫温泉駅での下車は決定。観光施設の多い青森駅周辺もゆっくり見たい。となれば、降りられるのはあと1駅か2駅程度。迷う間も電車はどんどん走っていく。焦って目を走らせたリストの中、「日本最古」の文字を発見。「日本最古の鉄道防雪林」、最寄り駅は野辺地駅。決めた、野辺地駅に降りる!

防雪林は防「暑」林

野辺地駅のホームに立つと、線路を挟んで向こう側に杉木立と「日本最古の鉄道防雪林」の大きな看板。さっそく駅を出て歩くこと約10分。線路に平行して広がる防雪林は、入ってはいけな所に入り込んでしまったような、不思議な感覚。普段、あまり見ることのできない位置から駅を見られるのも面白い。

しかも、一旦、防雪林の中に一步入ると、立っているだけで汗が流れ出るような、北国青森とは思えないほどの暑さが一転、すっと涼しい風が吹き寄せてくる。直線距離はたいして離れていないホームと防雪林だけれど、気温は防雪林の中の方が断然低い。強風多雪から線路を守るために作られた防雪林。雪のない真夏の今は、防「雪」林というより防「暑」林。線路と並行しているし、次の駅ま



八戸駅に停車中の青い森鉄道の電車。車体にはモーリーの姿が。

青い森鉄道線

【あおいもりてつどうせん】

青森駅から目時駅までを2時間10分で結ぶ。通勤・通学利用に加え、浅虫温泉や下北半島への観光客のアクセス拠点としても利用されている。





ゆうやけ橋に登ると、陸奥湾が見えてくる。



「日本最古の鉄道防雪林」。中はひんやり涼しい。

で続いていたら、一駅くらい歩けたかもしれない。

駅までの道の暑さ、ホームの暑さを思い、電車の時間ギリギリまで防雪林の中で涼んで、駅に戻る。

陸奥湾をどこから眺める？

今度は、野辺地駅から浅虫温泉駅へ向かう。浅虫温泉駅の手前では、車窓から「一瞬」陸奥湾が見られるというので、見逃さないよう、ドキドキしながら待っていると、視界がパッと開け、陸奥湾が広がる。「見えた！」という感動も束の間、その姿はすぐに道路や建物にかき消され、電車は浅虫温泉駅に滑り込む。

陸奥湾の景色をもっとゆっくり眺めたい。駅を出ると、何はともあれ海岸に直行。駅前のゆうやけ道橋を渡ると、目の前に、湯の島や裸島といった島々を抱く陸奥湾の姿。もっと綺麗に見える場所はないか、観光マップを眺めつつ歩いていると…

「遊覧船、乗っていかん？ 島を回るよ」。突然、おじいさんに声を掛けられる。「どこから出るんですか？ 出発時間は？」と聞くと、「すぐ出よう」と手招き。招かれた先にあったのは、小さな漁船。ニコニコとライフジャケットを差し出すおじいさんに、「漁船は恐いから遠慮しておきます」とは言わず、船に乗り込む。

小さな漁船は海面が近く、体感速度はかなり速い。「やっぱり怖い」と硬くなっている、と、ふっとスピードが落ち、「ええ、右手に

見えますのがあ、湯の島でございます」と、観光案内が始まる。独特の節回しで歌うように語られる解説に聞き惚れているうちに、景色を楽しむゆとりが出てくる。風を切って走る漁船のスピードも気持ちよくなり、怖かったのが嘘のよう。もっと乗りたいと思うころ、漁船クルージングは終了。船を降り、風のない陸地に立つと、思い出したように汗がじんわり。潮風も浴びたことだし、温泉に入ろう。

温泉、その後

日帰り入浴ができる施設のうち、大浴場からの眺めが良さそうなホテルを選択。一日乗車券「青い森ホリデーフリーきっぷ」の特典で、バスタオルが借りられるのも嬉しい。

大浴場は最上階。平日昼間にもかかわらず、湯船には先客の姿がチラホラ。ガラス張りの窓の外、一面に陸奥湾が広がる。海上から眺める陸奥湾も良かったけど、温泉に浸かりながら見下ろす陸奥湾も、また格別。

さて、さっぱりと汗を流した後は、駅前にある道の駅「ゆくさ浅虫」でソフトクリームをばくり。温泉に入って、湯上がりにはアイスを食べる。ああ極楽、極楽。いい気分。道の駅をぶらつければ、定番のお土産物に加え、地元産の新鮮野菜が格安ですらり。まだまだこれから、あちらこちらを見る予定。野菜なんて買ったら荷物が重くなる。でも、今買わなきゃもう買えない。

買うべきか、買わずに済ませるか。制限時間は、電車が来るまで、後15分。



青森駅からは、真っ白な青森ベイブリッジと電車を一緒に撮影できる。



「ゆくさ浅虫」のカシスのソフトクリーム。漁船から見る陸奥湾の湯の島。流れるような観光案内も楽しい。カシスは青森県産。

